

福祉サービス第三者評価結果報告書(平成30年度)

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 131-0032

所在地 東京都墨田区東向島六丁目37番4号

評価機関名 一般社団法人 アクティブ ケア アンド サポート

認証評価機関番号

機構 03 - 091

電話番号 03-6657-4511

代表者氏名 代表理事 小 池 一 歩

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		経営	H0701042
	②		福祉	H0502074
	③		福祉	H0702094
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	株式会社学研ココファン・ナーサリー ココファン・ナーサリー国領			
事業所連絡先	〒	182-0022		
	所在地	東京都調布市国領町7丁目17番3号		
	TEL	042-490-3230		
事業所代表者氏名	園長 矢原尚美			
契約日	2018 年 7 月 20 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2018 年 9 月 14 日			
利用者調査結果報告日	2018 年 10 月 26 日			
自己評価の調査票配付日	2018 年 7 月 20 日			
自己評価結果報告日	2018 年 10 月 26 日			
訪問調査日	2018 年 11 月 6 日			
評価合議日	2018 年 11 月 23 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	1. 利用者調査は、保護者61人(世帯)に対しアンケート方式により実施し、評価機関が用意した封筒により郵送してもらい、29人(世帯、48%)から回答が寄せられました。 2. 事業評価に当り、経営層及び職員に対し、「第三者評価ハンドブック」を使って事業評価の目的、手順、回答シートの記入要領などを説明しました。 3. 訪問調査は、11月6日(火)に行い、聞き取り調査と併せて、食事、園外活動を含む保育状況全般を観察しました。 4. 評価者はいずれも評価対象事業所とは事業上の関係を有せず第三者性の確保を図りました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>学研ココファングループ理念・保育理念 すべての人が心ゆたかに生きることを願い 今日感動・満足・安心と明日への夢・希望を提供します</p> <p>保育方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの養護と教育を両輪とした、子ども主体の心と体の育ちの支援 2. 子ども一人ひとりの認知・発達に応じた、個別の発達支援 3. 地域社会のすべての子育て家庭に対する、様々な取り組みによる育児支援 <p>ココファン・ナーサリーの取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが本来持っている「育ちのチカラ」を伸ばします 2. 子どもの主体的な活動を援助し、子どもの発達を促します 3. 養護と教育の一体化を実践し、家庭と連携します <p>保育目標（目指す子どもの姿）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な生活習慣が確立した子 2. 心も体も自立した子 3. 自律した行動がとれる子 4. 他人に対する思いやりと寛容な気持ちを抱き、援助ができる子
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <p>①コミュニケーション能力の高い人材 ココファングループが提供するサービスは、個人が単独で提供するものでなく、チームで協力しながら提供していくものです。したがって、相手の考えに耳を傾け理解する姿勢と、自分の考えを相手により良く伝える工夫が必要です。</p> <p>②成功・達成させる信念をもっている人材 ココファングループでは、企業理念・ビジョンの実現に向けて、仕事の成功・達成を求めています。社員それぞれが成功・達成するためにはどうしたらよいか、自分はどの行動すべきか、成功・達成するための信念を持ち、将来を予測しながら、柔軟な発想で仕事を進める人材を求めます。</p> <p>③責任感がある人材 ココファングループでは、すべての社員、個々の職務・ステージに応じて「期待する役割」を設定しています。個々の役割を果たしていくことで個人のスキルアップ・キャリアアップが図られ、ひいてはグループ理念・ビジョンの達成につながるという考えに基づいた人事評価制度を取り入れています。 自らの役割を理解し、強い「責任感」で仕事を完結できる人材には、経験・キャリアを問わず、様々なステージが用意されています。</p> <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①子どもを好きでいてほしい：子どもの気持ちをどんな時でも受け止められるような保育者であってほしい。 ②プロとしての使命感：プロとして、技術・知識が足りなければ、自ら勉強をして、自分の腕を磨き保育のプロになってほしい。 ③経験を積み上げる：子どもと過ごしていく日々が積み重なることで、経験という大きな財産を積み上げていってほしい。 ④仲間を大切に：チームワークが一番大切な仕事である。自ら相手を思いやり、大切にしている姿勢をもってほしい。 ⑤ココファンマインド（約束）を守る：嘘をつかない・逃げない・ごまかさない の3つを守ってほしい。 ⑥信じてくれている人を裏切らない：私たちのことを信頼してくれている保護者や子ども達を裏切らない気持ちを持ってほしい。 ⑦自身の役割を果たす：それぞれに与えられている役割に責任を持ち、役割を果たしてほしい。

調査対象

2018年9月現在、保育園を利用している子ども68人の保護者61人(世帯)を対象として実施しました。回答者は29人(回答者割合48%)でした。

調査方法

保育園から、予め保護者に対し第三者評価の目的等について周知され、利用者(保護者)調査票と評価機関作成の説明書を配布、記入後評価機関へ直接郵送してもらい、9月28日に締め切りました。

利用者総数	68
利用者家族総数(世帯)	61
共通評価項目による調査対象者数	61
共通評価項目による調査の有効回答者数	29
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	47.5

利用者調査全体のコメント

回答者の保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が14人(48%)、「満足」が12人(41%)、「どちらともいえない」が2人(7%)、「無回答」が1人(3%)で、9割近くの保護者が満足しているという結果です。個々の質問項目でもおおむね高い評価をしています。

保育園に対する意見・要望には、「ほかのクラスの先生でも親しく子どもに接してくれて安心。活動が多岐(スポチャ、生け花、食育など)でイベントが多くあり楽しそうです。いい意味で柔軟だと思う。行事は毎年改善されておりすごいと思うが、先生方の負担が心配です。安全対策が適切で、熱中症対策やプール事故予防も事前のお知らせがしっかりある。先生方のチームワークも良く、もじかずランドや教材など学研らしさも良い。気になることや体調のことなど、保育士や看護師に相談できること。」など評価する記述が多くありました。一方、「外遊びの時間をもっと増やしてほしい。行事のアンケートなどありますが、全体からの意見を聞き、園としての方針をはっきり示してほしい。雨天の時に園庭がピチャピチャで歩きにくいし、自転車置き場に屋根がほしい。」など要望する記述もありました。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	29	0	0	0
「はい」が29人(100%)でした。質問内容に関する自由意見には、「家庭ではできない季節ごとの行事や他の家庭の子どもと触れ合えるので良い刺激になっている。自分から進んでお手伝いをしてくれるようになりました。」という記述がありました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	29	0	0	0
「はい」が29人(100%)でした。自由意見には、「納豆を食べる時に良く歌ってくれます。」という記述がありました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	24	3	1	1
「はい」が24人(83%)、「どちらともいえない」が3人(10%)、「いいえ」が1人「非該当」が1人(各3.4%)でした。自由意見には、「自宅のごはんは美味しくないと言いますが、保育園の給食はとても美味しいそうです。食育でピザを作って食べたのはすごく美味しいと言って喜んでいました。」「離乳食中期だが食物の進捗表が進まず給食が食べられない。」という記述がありました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	22	4	2	1
「はい」が22人(76%)、「どちらともいえない」が4人(14%)、「いいえ」が2人(7%)、「非該当」が1人(3%)でした。自由意見には、「いろんな公園に行けてます。」の一方、「園庭が小さい分、他園より機会が少ないと思います。」という記述がありました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	24	1	0	4
「はい」が24人(83%)、「どちらともいえない」が1人(3%)、「非該当」が4人(14%)でした。自由意見には、「急な連絡でもいつも優しくしてくれます。」という記述がありました。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	22	7	0	0
「はい」が22人(76%)、「どちらともいえない」が7人(24%)でした。自由意見には、「今年の夏は暑すぎてプールを中止にしましたが、逆に安心しました。」という記述がありました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	24	4	1	0
「はい」が24人(83%)、「どちらともいえない」が4人(14%)、「いいえ」が1人(3%)でした。自由意見には、「午前中だけなので、小さい子がいても参加しやすいです。土曜日に設定されているので参加しやすいです。」という記述がありました。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	27	2	0	0
「はい」が27人(93%)、「どちらともいえない」が2人(7%)でした。自由意見には、「家でもよく先生の話をしてくれます。担任の先生がとても親切に育児の相談にも対応してくれます。信頼してます。」という記述がありました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	25	3	1	0
「はい」が25人(86%)、「どちらともいえない」が3人(10%)、「いいえ」が1人(3%)でした。自由意見には、「いつもきれいです。たまには床にほこりやごみが落ちているのが気になるが、おおむね清潔だと思う。」という記述がありました。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	24	4	1	0
「はい」が24人(83%)、「どちらともいえない」が4人(14%)、「いいえ」が1人(3%)でした。自由意見には、「むしろ丁寧すぎてこちらが恐縮です。」の一方、「子どもに友達のように話している姿を見ます。正しい言葉遣いで子どもに接してほしいです。」という記述がありました。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	27	1	1	0
「はい」が27人(93%)、「どちらともいえない」が1人、「非該当」が1人(各3%)でした。自由意見には、「看護師さんもいて安心です。」の一方、「わが子はよく蚊に刺されていて、園としての対策に疑問を感じることがあります。」という記述がありました。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	19	7	0	3
「はい」が19人(66%)、「どちらともいえない」が7人(24%)、「非該当」が3人(10%)でした。どちらともいえないと回答した人の自由意見には、「噛まれたような傷ひっかけ傷がしばしばあり、心配でした。子ども(2歳児)に注意していた時”バツです”とだけ言っていた。どうしバツなのかやることで何が起きるからダメなのか理由を伝えてほしい。」という記述がありました。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	27	1	1	0
「はい」が27人(93%)、「どちらともいえない」が1人、「いいえ」が1人(各3%)でした。自由意見には、「助かっています。」の一方、「特に乳児は一斉教育は必要ないと思います。」という記述がありました。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	25	2	0	2
「はい」が25人(86%)、「どちらともいえない」が2人((7%)、「非該当」が2人(7%)でした。自由意見には、「特に気にしたことは無いです。」という記述がありました。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	25	4	0	0
「はい」が25人(86%)、「どちらともいえない」が4人(14%)でした。自由意見には、「できれば、子どもの園での性格が知りたいです。」と、どちらともいえないと回答した保護者から「最近保護者の意見で幼児クラスの活動内容の報告方法が変わったが、担任によっては大分雑(かなり簡素)だなと思うことがあります。お知らせの紙の説明で不十分なところもある。」という記述がありました。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	22	3	1	3
「はい」が22人(76%)、「どちらともいえない」が3人(10%)、「いいえ」が1人(3%)、「非該当」が3人(10%)でした。自由意見には、「そう思います。」という記述がありました。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	15	4	3	7
「はい」が15人(52%)、「どちらともいえない」が4人(14%)、「いいえ」が3人(10%)、「非該当」が7人(24%)でした。自由意見の記述はありませんでした。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/> 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <input type="radio"/> 非該当
	カテゴリ1の講評	
	理念・方針を明示して保護者や職員の理解が深まるように努めています。 「子どもの養護と教育を両輪とした、子ども主体の心と体の育ちの支援」他2点を保育方針に定め企業理念や保育目標等を玄関ホールや事務室に掲示しているほか「入園のご案内」や毎月発行する園だよりに掲載し、保護者に周知しています。職員は事務室等に掲示しているほか運営会社(以下「本部」という)が開催する初任者、中堅、管理職等に応じた研修の際、理解を深める取り組みをしています。人事制度で要請される園長と職員の期待役割面談で保育理念等について話す機会を設け、職員の理解を深める取り組みをしています。 園長は自らの責任と役割を認識してリーダーシップを発揮しています 園長は保育園運営のかなめとしてリーダー層や職員を指揮指導して保育園運営にあたっています。本部は、円滑な保育園運営に資するため財務管理や採用を含む人事管理等の経営管理を担当しサポートしています。園長は、保護者と信頼関係を築くため職員個々の能力を見極めてクラス担当などの人事配置を行いクラス運営を支援しています。毎日の朝礼や職員会議などを通じ、職員に保育園が目指す理念や方針とそれに基づく行動を指導指示していますが、さらなる理解向上のため職員とのコミュニケーションを図ることを期待します。 重要案件は職員には会議などで保護者にはお知らせなどで周知しています 本部傘下の保育園全体に共通する課題は、各園等から選ばれたメンバーでプロジェクトチームを結成、検討し「運営ガイドライン」等にまとめています。本部で必要な意思決定が行われ、園長会議などを通じ徹底されています。保育園としての重要事項は、リーダー会議、職員会議で検討し園長が決定しています。本部から指示された重要事項や園内重要案件は、職員会議や朝礼などで伝え周知しています。保護者へ伝える重要事項は、園だよりや特別なお知らせを出して伝えています。緊急を要する連絡は、園内に掲示して伝えています。	

カテゴリ-2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー2の講評

保護者の意向を集約して対応を検討していますが、さらなる検討を期待します

年2回開催している運営委員会の前に保護者全員にアンケートを実施し、保護者意見を集約しています。運営委員会には、各クラス1名の保護者代表の出席を受け意見・要望を把握しています。保護者参加の行事毎にアンケートを取りまとめたり、日々の連絡ノートや送迎時の会話から意見・要望を把握しています。これらの意見・要望は抽出、集約、内容を確認し、案件により本部との相談や、職員会議などで検討し対応を決めています。さらに保護者と個人懇談会を開催するなど、保護者個々と意見交換する機会を作ることを期待します。

保育園を取り巻く環境の情報や、運営に直結する情報・要望の入手に取り組んでいます

園長は、職員と年3回の期待役割シートに基づき面接を行い意向把握しています。地域の動向を把握するため、市が運営する民間施設長会や主任会、看護師会、栄養士会にそれぞれ参加し情報を入手しています。職員の要望等や諸会議等での情報等は本部に報告するとともに、系列の近隣保育園で構成するブロックで検討しています。本部の園長会でも情報交換や提供を受け保育園運営の参考にしています。市の施設長会議後のブロック園長会では近隣施設の情報交換が図られていて、近隣園の特徴などを把握しています。

園の課題を踏まえ「全体の計画」を策定しています

本部は、全社的に保育・学業・新規事業を目指す姿を全施設数や売上高などの数値目標を設定し、引き続き2021年に向け中期計画を策定しています。園では本部の方針を中長期的な計画と位置づけ、運営方針に園が取り組む課題として集約しています。それを実現させるための「年度事業計画」と「年度の全体的な計画」を策定しています。計画推進のため項目ごとに職務分担表を定め、それぞれの年間計画表を策定し、円滑な計画の遂行に資するようにしています。

3			カテゴリ-3	
経営における社会的責任				
サブカテゴリ-1(3-1)				
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる				
評点(〇〇)				
評価	標準項目			
◎ あり ○ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる			○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。			○ 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)				
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている				
評点(〇〇)				
評価	標準項目			
◎ あり ○ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている			○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある			○ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている				
評点(〇〇)				
評価	標準項目			
◎ あり ○ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している			○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている			○ 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)				
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる				
評点(〇〇)				
評価	標準項目			
◎ あり ○ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる			○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している			○ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている				
評点(〇〇〇)				
評価	標準項目			
◎ あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている			○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している			○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる			○ 非該当

カテゴリー3の講評

保護者の意向を多様な方法で把握し迅速に対応する体制を整備しています

入園時や進級時に、「生活の手引き(重要事項説明書)」に記載されている「苦情・要望等について」で苦情解決制度を説明し保護者に周知しています。苦情受付から解決に至るフローチャートを園内に掲示しています。玄関ホールに「ご意見箱」を設置し受付る体制を作っています。保護者から、送迎時の口頭や連絡帳へ記載するなど、保育に関する悩みや意見・要望等を気軽に相談できるような信頼関係を作っています。年2回開催する運営委員会の前に保護者アンケートを実施し、取りまとめ運営委員会に反映しています。

子どもの人権を守り、虐待について研修し予防対策を講じています

職員は本部が作成した「運営ガイドライン」を使って年に1回は園内で研修を行い、人権や虐待について学び認識できるようにしています。日常の保育活動の中で、職員自身が不適切な言動・行動がないかセルフチェックリストを使って確認しています。市が推進する「子どもを守る地域ネットワーク」に従い、虐待の疑いがある「要保護児童」を疑われる利用者があれば、市の関係機関と情報共有するなど連携が取れる体制づくりをしています。

地域に開かれた保育園を目指し取り組んでいます

市の私立園長会や調理師や看護師の会に参加し、保育園の活動報告や情報共有をしています。市が運営する子育て運営サイト「コサイト」に園の紹介をし、園だよりを市の担当課に提供しています。本部が運営するホームページに情報公開しています。市報に子育て支援に関連する園開放の情報を掲載し、利用希望者を定期的に受け入れ、毎月の誕生会に近隣の方の参加もあります。保育士の職場体験で、高校生を実習生として、中学生を職場体験で受け入れています。開設4年目で2回目の第三者評価を受審するなど情報公開に取り組んでいます。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○ 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○ 非該当
カテゴリー4の講評		
<p>リスク対策に優先順位をつけ発生防止と発生時の対応訓練をしています</p> <p>園ではリスクを①事故②侵入③災害④感染症⑤経営環境と優先順位をつけ、それぞれの発生防止や発生時の対応訓練を実施して対策に努めています。保護者の関心が園児の安全にあると受け止め、事故防止対策委員会とアレルギー対応委員会を設立、運営の中心に看護師を置き、専門的観点を生かした委員会運営をしています。事故報告書とヒヤリハット報告書を作成し、委員会で内容分析、再発防止の取り組みをしています。感染症対策では園内研修で嘔吐処理訓練をしました。火災・地震には毎月避難訓練を行い、保護者の引き取り訓練も行っています。</p> <p>安全への意識改革と気づきに取り組んでいますが、設備面での改善を期待します</p> <p>職員が日頃の保育活動の中に潜むリスクに気づき、事故防止への取り組みや、安全への取り組みを強化するため「アレルギー対応委員会」「事故防止委員会」を設置して安全対策に取り組んでいます。アレルギー児へ職員全員が共通理解を深め、改善のポイントを検討しています。保育活動中の一場面の写真を見て、その中に潜む危険性を議論、共有、改善の気づきに取り組んでいます。保護者意見には、雨天時、園庭に水たまりができて登降園時足元がぬれたり、園舎への出入りが大変。降園時、日没後は暗いなどがあり、設備面でのさらなる改善が期待されます。</p> <p>写真など個人情報の管理・使用は保護者の意向に配慮して対応しています</p> <p>保護者や子どもの個人情報を収集して使用しています。入園時や進級時に重要事項説明書で個人情報の取り扱い方について説明し、個人情報の取り扱い方と個人画像等の使用・販売に関する承諾書の提出を求めています。保育活動中の写真やビデオは、園内に掲示したり、ブログに掲載し保護者の閲覧に供しています。個人情報を含む情報は施錠可能な事務室の保管庫に収納して管理しています。それ以外の書類は、項目別・年度別にファイリングして整理整頓し職員が必要な時に見やすいようにしています。</p>		

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に
取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
◎ あり ○ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリ-5の講評

全職員の能力向上を目指し研修の充実に取り組んでいます

本部は多くの保育園や各種施設を運営しているので、本部独自の研修体系とプログラムを準備しています。新任者、リーダー、管理者など各ステップに応じた研修と、栄養や保育技術、食品アレルギー等に関する専門研修があります。園では職員の意向に配慮して研修受講を決めています。今年度は事故防止委員会の検討と連動し、全職員を対象に「エビペンの扱い」などの園内研修を積極的に実施しています。市の研修も受講する等職員の知識や技術の習得を目指しています。新任者には専任コーチを決め、早期戦力となるように取り組んでいます。

コミュニケーションを強化して職員の意欲向上に取り組んでいます

本部が提供する人事制度・規程の中で職員の評価と処遇が決まります。その根幹である「期待役割シート」によって、職員は園長と面談し今季の目標と実践、結果評価をしています。「勤務シフト表」を作成し勤務時間管理をし、病欠等状況の変化に臨機応変に対応しています。要員確保に取り組み、少しでも職員の希望に沿いたいと努力しています。このように状況を把握しながら職員とのコミュニケーションを強化し、園長・主任はリーダー層と連携し、職員の勤労意欲と働きがいの向上に取り組んでいます。

絵本を活用した保育や事故防止への気づきを深め、幅広い職員の取り組みとしています

本部から配付される絵本を活用した「絵本のネタ」を職員が考え保育に使っています。系列園でも同様の取り組みがあり、本部が取りまとめ各園に情報提供し共有しています。園長は全体のリーダーとして取り組みを推進しており、自園職員の創意工夫や学びに役立つとともに他園の支援にもなっています。事故防止対策委員会では、看護師を座長に栄養士も参加するなど幅広い職員の参加を求め、事故報告の検討にとどまらず、保育活動の一場面の写真を見て、その中に潜む危険を議論して把握し危険性に対する気づきと改善に取り組んでいます。

7		カテゴリー7
事業所の重要課題に対する組織的な活動		
サブカテゴリー1(7-1)		
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている		
評価項目1		
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)		
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)		
<p>保育園運営の基本テーマは、「保護者に保育園運営に対する協力や理解を得たうえで、ともに大切な子どもたちが育つ環境を作る」です。</p> <p>現園長が就任した2016年度途中の運営委員会で保護者から各種の苦情や運営に意見が出されました。保護者が保育園の運営に不信感を抱いていたことに気づき、各種対策をしました。保護者会の開催で経緯説明、第三者評価で保護者の意向把握等、保護者の保育や行事への参加を促す、運営委員会前のアンケート実施など。</p> <p>2017年度は、運営委員会前に保護者アンケートの継続実施、保護者に日常保育への参加や行事へのお手伝い依頼等、行事後のアンケートの実施と次回行事への反映、日常の保育活動の中での保護者の意向把握など積極的に取り組みました。保護者の意向を踏まえた運営の、年度途中では苦情をもらうこともありました。年度末には保護者から感謝の手紙をもらいました。2月運営委員会前の保護者アンケートは意見要望の申し出が減少していました。これらの取り組みが間違いなかったと受け止めています。</p> <p>2018年度も「保護者に保育園運営に対する協力や理解を得たうえで、ともに大切な子どもたちが育つ環境を作る」をテーマに置いています。</p>		
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった	
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評		
<p>2016年度に判明した保育園への不信感を払拭するため、保護者の保育現場への参加を通じて保育園の現状への理解を深める取り組みを2017年度の取り組みとして計画を立案していました。</p> <p>前年度後半から計画実行してきた、保護者の保育参加の実施、運営委員会前の保護者アンケートの実施、行事への参加などを引き続き行ってきました。年度途中では必ずしも保護者の信頼が十分に獲得できる段階まではいっていませんでした。年度途中で苦情を受けることもありましたが、年度末には卒園児の保護者から感謝の手紙をいただくまでになっていました。</p> <p>保育園の活動に保護者の理解を得ていくことを目的に実施した様々な取り組みが、不信感の払拭につながっており、目標設定とその取り組みが成果を上げています。今年8月に開催した運営委員会の直前に実施した保護者アンケートでは、出席した保護者以外で提出した保護者は数人にとどまっています。保育園に意見や要望を持つ保護者が少なくなっていることと見受けられ、取り組んできた計画は目的を達成したと評価できます。</p>		

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

保護者が望む大切なことは、大きな事故を起こさないことです。保育中に起きる小さな事故への職員の意識改革を目指し「子どもたちの安全を守るために事故防止委員会を設置する」ことを計画しました。

園長は、職員の安全への認識に格差があり、気づきへの「力」にも職員間の格差が大きいことに問題認識を持ちました。大きな事故は起きていませんが、小さな危険が事故に結びつくことから、事故防止委員会とアレルギー対応委員会を設置し、看護師と栄養士に運営を任せました。前月発生した事故の検証と、ヒヤリハットを取り上げ共有しています。

事故発生時の対応には、看護師の指導で発生時に慌てないよう知識の共有が進んでいます。アナフィラキシーに対する補助治療剤の講習を実施し、緊急時に対応できるよう訓練しました。保育の一場面を写真に撮り、どんなリスクが潜んでいるか議論することで「気づきの力」を向上させ、保育の現場にも変化が生まれています。アレルギー対応委員会では、事故防止への取り組みに加え、アレルギー児の情報を共有することができるようになりました。

2018年度の全体的な計画に、月1回の事故防止委員会の開催を明記し、確実な遂行を目指しています。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

園長は、子どもたちの安全を守る取り組みが、保護者が期待する最重要事項であると認識していました。事故防止委員会とアレルギー対応委員会を設置して同一事故の再発防止、保育活動に潜む事故懸念を認識・共有し発生の事前防止、アレルギーを持つ子どもの情報を共有し危険防止を全員で取り組むなどをしました。

事故防止委員会では、看護師が運営委員会の中心になり、事故発生による課題や対策の共有、簡単な応急措置などに関する知識の共有に取り組んでいます。ヒヤリハットの情報が共有されることで、どこに事故発生の懸念があるか共有できるようになりました。運営の中心に看護師を置いたことで専門的な観点から指摘でき、アナフィラキシーに対する補助治療剤の講習もその成果の一つと見られます。保育の場面を写真で切り取り潜む危険を議論することは気づきの力の向上につながっています。アレルギー対応委員会ではアレルギーを持つ子の情報共有と安全に対する意識が向上しています。9月には、9回目の事故防止委員会を開催し、園庭の使い方について1枚の写真から予測される事故を検討していました。今後、さらに継続することで、職員のスキルアップと気づきの力の向上が期待されます。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の見学があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
	サブカテゴリ-1の講評		
	<p>利用希望者等が入手しやすい媒体での情報提供をしています</p> <p>園のパンフレットとしての平成30年度入園のご案内には、利用希望者が知りたい情報、例えば所在地や園までのアクセス、園舎の様子、保育時間、保育室のたたずまいなどを、カラー刷り、コンパクトにまとめ誰でもが手に取りやすい工夫があります。園の玄関や調布市子ども家庭部保育課の窓口に常備しています。パソコンなどの電子媒体でいつでも見られる、本部作成のWebサイト、調布市のホームページやコサイト(子育て応援サイト)にも情報を掲載しています。利用希望者等は、入手しやすい媒体を選択して利用しています。</p> <p>事業所の情報を、行政や関係機関と共有し円滑な事業運営に役立っています</p> <p>毎月発行する園だよりやクラスだより、給食だより、ほけんだよりは必ず保育課に送付しています。また、事業内容の園児数報告、延長事業報告など行政への報告事項の資料提出もあり、常時緊密な情報のやり取りがされています。園長は、調布市民間施設長会に出席し、保育園間や地域の必要な情報を把握して円滑な園運営に役立っています。園児や保護者の必要に応じて、調布市子ども発達センターや子ども家庭支援センターと連携がとれる体制を作っています。</p> <p>園見学の条件を決めていますが、曜日や時間帯の設定枠を広げる検討が望まれます</p> <p>本部作成のWebサイトに、園見学の実施条件を掲載し、毎週木曜日午後1時から案内しています。各回5名を目安にして電話やサイトからの申し込みを受けています。毎年8~10月に希望者が集中し、今年度も月平均10人位の見学がありました。園内の案内は主任やリーダーが担当し、質問や相談には園長が対応しています。見学日程や時間については、園の状況と希望者の要望を調整できるように配慮しています。見学者にはパンフレットを渡し、明るい雰囲気で見学出来ていますが今後は、曜日や時間帯の設定枠を広げる検討が望まれます。</p>		

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
◎ あり ○ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
◎ あり ○ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○ 非該当
サブカテゴリ-2の講評		
入園にあたり必要な書類の提出と重要事項の説明を丁寧に行っています 入園が決まった家庭には、児童票、緊急連絡票、入園までの生活状況を記載してもらい2月中に提出、健康診断と併せて個人面談をしています。子どもの既往症やアレルギーの有無、性格、遊び方等入園してからの保育に必要な情報を聞き取り、併せて園への要望や心配なことなどを聞き取り、決まった書式に記録しています。3月末に入園・進級説明会を実施して、進級する在園児の保護者と一緒にココファンナーサリー国領生活の手引き<重要事項説明書>の記載事項を丁寧に説明、同意書と併せて個人情報取り扱いについての承諾書を貰っています。 入園後は、子どもの生活の連続性に配慮して慣らし保育をしています 入園・進級説明会では、各クラスの担任をはじめ職員を紹介しています。新入園児の慣らし保育を各家庭の状況や事情に合わせて実施し、子ども、保護者、職員との信頼関係が築けるように取り組みます。職員は、各家庭から提出された書類の記載内容を事前に把握、毎日の連絡帳を双方でやり取りをすることで、家庭から園、園から家庭の日々の生活に配慮し、きめ細かい保育の連続性をこころがけ信頼関係を築いていきます。職員は朝礼等で情報共有を図り、誰でもが対応出来るようにしています。 転園や卒園時に支援の継続が出来るようにしています 年度途中での転園は少なく、今年は10月に1人だけでした。毎年度末に配っているアルバムと同じように職員や子どもたちのコメントを添え、いつでも遊びに来てほしいことを伝えています。必要がある時には、転出先の関係機関と連携が取れるように体制を整えています。卒園児が小学校へ入学してからも園に遊びに来てランドセル姿を見せに来てくれたり、夏祭りに招待状を出し保護者と一緒に参加出来るようにしています。今年も11名が親子で参加、園児と一緒に楽しく過ごし、学校での様子も聞けています。		
サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
◎ あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当

評価項目2
 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
◎ あり ○ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
◎ あり ○ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	○ 非該当

評価項目3
 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)

評価	標準項目	
◎ あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当

評価項目4
 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)

評価	標準項目	
◎ あり ○ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○ 非該当

サブカテゴリー3の講評

子どもの成長を把握、次期への課題設定をし書式に記録、明示しています
 子ども個々の記録を厚めの1冊のファイルにまとめ、児童票、健康調査票、緊急連絡票、個人面談記録を綴じ込んであり、クラス別に閲覧しやすくしています。子どもの健康調査票には、毎月の身長・体重測定や0歳児の毎月の健康診断、幼児年2回の園児健診結果・歯科健診結果が記録されます。毎日0・1・2歳児は個別日誌を記載、3・4・5歳児は健康チェック表で子どもの様子を把握できるようにしています。職員は、0・1・2歳児は毎月、3・4・5歳児は3カ月毎に担当職員の評価・反省と次期への課題設定をし、書式に明示しています。

年度「全体的な計画」で園の重要課題を明示、把握できます
 保育理念や保育方針、保育目標に沿った園の「全体的な計画」が策定されています。地域や園の特色を明示し、子どもの発達過程に応じた姿(育てたい側面)、ねらいを具体的に記述し、養護と教育、食育、障害児への配慮、健康支援、衛生管理、安全・危機管理、子育て支援、小学校連携、異年齢交流、長時間保育、職員の資質向上について具体的な項目を掲げて明示しています。組織マネージメント評価項目7の重要課題2項目の課題設定「事故防止対策委員会の実施」「保育参加(月1回)」も記載しており、園の年度の重要課題が把握できます。

職員は毎日の朝礼をはじめ必要な会議を定例的に実施し、情報共有に努めています
 子どもの年齢別年間、月間、週案・日案、個別指導計画等は、決められた期間ごとに振り返り反省、評価をして次月の目標設定をしています。職員間で月1回の職員会議や給食会議、月1・2回の乳児・幼児会議、週案会議、毎日の朝礼を実施して情報共有に努め、職員誰もが子どもや保護者の様子、職員体制や取り組み内容を把握できるように、非常勤職員を含めた閲覧体制もしっかり作って確認しています。計画書式や記録様式は本部で作成、系列園共通の書式が平成29年度から採用、使用され、それぞれ書式ナンバーが付されています。

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
◎ あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和りとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている		○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎ あり ○ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○ 非該当
サブカテゴリー5の講評			
<p>個人情報保護方針について保護者から承諾書の提出を得て遵守しています</p> <p>入園時保護者に渡される重要事項説明書には、運営会社の統一した個人情報保護方針と、その方針に則った園の取り組みの中で、ブログでの情報公開、ビデオ・写真等の記録管理、特定の業者への委託などの取り扱いについて文書で明示、説明しています。保護者には、個人情報取り扱いについての承諾書を提出してもらい意思確認をしています。別途同意が必要な事案が生じた時には、改めて説明、意思確認をしています。今回の利用者調査問14の職員のプライバシー遵守について、86%の保護者が守られていると答えています。</p> <p>運営ガイドラインには子どもの人権を守る為の具体例が示され、実践に努めています</p> <p>29年度に本部が策定した「運営ガイドライン一人権一」の子どもの人権では、①差別用語②子どもへの対応③子どもへの言葉かけNG集として、具体的な事例が示されています。例えば、排泄・おもらしの対応には、「ほかの子どもの前で脱がせない。またおしっこしたの？駄目ね！は禁句。周りへの配慮をして着替え。誤解を招くような行動に注意。」等がありました。職員は、定期的に、児童憲章、児童の権利条約などと一緒に運営ガイドラインなど学び合う機会を作り、保育理念に基づいた保育の実践に努めています。</p> <p>日頃から子どもへの適切な対応や気づき方を学び、適切な対応が出来るようにしています</p> <p>虐待防止対応については、調布市主催の研修委員会に参加して事例や研修によって学び、研修報告をすることで職員全員が共有、理解するよう取り組んでいます。運営ガイドラインにも「虐待」項目を策定してあり、具体的な対応が示されています。現在虐待を心配するケースはありませんが、いつでも組織的な対応が出来る体制を整えています。職員には、本部が示した「子どもと接する大人の12か条」を保育室にも掲示してあり、常に子どもへの適切な接し方を念頭に置き、見守る保育の実践に努めています。</p>			

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー6の講評		
<p>本部が策定している「運営ガイドライン」が示され、その内容に則って対応しています</p> <p>2017年度から本部の策定した「運営ガイドライン」に沿って組織的な取り組み方が示されています。職員の異動やキャリアパスの運用で、どこの事業所でも通用する内容になっています。1. 会社概要から始まり、服務規定や職員資質の向上、人権、保育の手引き、危機管理、子育て支援、書式など19の大項目を明示、それぞれ基本的な考え方と詳細な対応の仕方を文書化しています。本部は委員会を設け、毎年更新できる体制を整えています。園からは、子ども・保護者・職員の実情がきちんと反映される仕組みを提案していきたいと考えています。</p> <p>サービスの向上と安全面への配慮から業務水準を見直し、実践に移行しています</p> <p>2017年11月、調布市から「アレルギー対応」についての新しいマニュアルが提示されました。アレルギー対応が必要な子どもが在籍していることもあり、間違いが起きてはいけないことから、アレルギー対応委員会を設置して毎月学び合ったり、事故防止委員会を定期的に開催し保育の質の向上を目指した内容検討をして職員全体での共有を図っています。延長保育の保育室を子どもの人数が少なくなる6時半までは年長児と年少児を分けて保育することが、職員提案で決まり9月から実践に移行しました。業務水準の見直しと実践に取り組んでいます。</p> <p>保護者意見や提案を反映できる職員のコミュニケーションの円滑さが生かされています</p> <p>保護者からの意見は、登降園時や個人面談、年2回の運営委員会、保育参加の機会を提供し園運営の透明性を高めたりする機会を作っています。プレイデイや夏祭りの行事ではアンケートを取って次への改善につなげています。こうした取り組みの中では、職員間の連携や協力体制が必須ですが、保育士、看護師、栄養士などの職種を超えた連携が出来ており、職員間のコミュニケーションが円滑で話し合いや解決できる体制があります。職員の自己評価のコメントにも人間関係の良さをあげている記述が複数ありました。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
		35 / 35	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている			
		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎ あり ○ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○ 非該当
◎ あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○ 非該当
◎ あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○ 非該当
◎ あり ○ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		○ 非該当
評価項目1の講評			
<p>子どもの発達過程や生活環境を把握した個別指導計画と、併せて月間指導計画があります</p> <p>子ども個々の発達過程や生活環境、保育の様子は、0・1・2歳児は毎月、3・4・5歳児は3カ月ごとに個人成長記録を作成して把握しています。養護と教育、食育などの項目ごとに前月の子どもの姿と職員の評価・反省、当月の指導計画を作成しています。クラスごとの指導計画には個々の子どもの様子を反映し月間指導計画を作成。1歳児11月の指導計画のねらいの1つは、身の回りのことに興味を持って自分で挑戦しようとする。保育内容には、自分の身の回りのことは自分でやってみる。と記述され、保育での配慮・環境構成が記載されています。</p> <p>子どもが主体的に遊べる環境や、色々な人達と関われる機会を作っています</p> <p>日々の自由保育では、子どもがその時に関心を持っている遊びを選択できるように、年齢に応じたコーナー保育と玩具類の準備をして、選んで遊べる環境を作っています。職員は、常に子どもの遊ぶ様子から今何が必要なのかを観察し、気づきのアンテナを張っています。訪問調査当日は雨天で室内遊びをしている子どもの姿を観察出来ました。3・4・5歳児の居室では、トランプ、描画、塗り絵など思い思いに活発に遊ぶ姿が見受けられました。異年齢保育や姉妹園との交流、高齢者との多世代交流も年間を通して計画的に行っています。</p> <p>小学校への就学に向けて、計画的に支援をしています</p> <p>5歳児クラスの11月月間指導計画には、小学校との連携計画内容に、①近隣の小学校の位置確認をしておき、子どもの就学先を把握②小学校開催の意見交換会に職員が参加。家庭への支援としては、就学に向けて不安を抱えている家庭には話を聞き、職員からの声掛けもしていく。と記述されています。5歳児の居室の入り口には、近隣小学校が作成したお知らせのポスター「新入生保護者向け給食試食会のお知らせ」が掲示してありました。園は小学校就学に向けた具体的な保護者支援を行っています。</p>			
2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている			
		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎ あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○ 非該当
◎ あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○ 非該当

評価項目2の講評

登降園時には、園と保護者の双方向で子どもの様子や状況を伝え合い確認しています

登園時にはどのクラスでも登園チェック表に、保護者が登降園の時間や朝食の喫食状況、排便の有無、体調、体温、迎え時間や誰が迎えに来るのかを記載しています。迎える職員は、健康チェック表に朝の視診、体調、目の状態、外傷や皮膚の状態、その日の活動内容や状況、降園時に保護者に伝えることなどを記載します。登園チェック表と健康チェック表、連絡帳によって、家庭と園との連動した子どもの様子が把握でき、保護者と日々確認、伝え合っています。その日の子どもの活動状況は、口頭、連絡帳、クラスのお知らせボード、ブログで知らせています。

基本的な生活習慣が身につくように、無理なく意欲的に取り組めるように配慮しています

1歳児11月の指導計画の保育内容に、トイレに座って排泄しようすることやおむつがぬれたり排便した時に言葉やしぐさで伝えようとするなどあり、トイレに行くタイミングを見極めて無理なくおむつ交換やトイレでの排泄が出来るように配慮する。と環境構成を設定しています。この様に、排泄や食事の仕方、他児との関わり方等、年齢に応じた発達を踏まえた指導を、家庭での状況も踏まえながら無理なく進めること、意欲的に取り組めるように見守る姿勢を大切にしています。

休息や午睡時間は、子どもの様子や家庭生活への影響を考慮して対応しています

休息や午睡時間はその日の子どもの様子や家庭生活への影響を考慮して、寝始める時間差を設けて対応し、起きる時間は同じにして午後の活動をしやすい取り組みとしています。小学校就学へ向けての準備として、12月頃から5歳児クラスの午睡はせずに、ドリルや絵本読みなど静かな保育活動を設定します。子どもの希望や様子で午睡が必要と判断したり、長時間保育の利用状況なども考慮して個別対応もしています。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当
● あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当

評価項目3の講評

環境設定を工夫し、子どもの発達や気持ちを大切にしています

子どもの発達に合わせて、意思を尊重できるような環境設定を行っています。0・1・2歳ではコーナー作りをして昼食や午睡の前に玩具を選んで自由に過ごし落ち着けるようになりました。幼児クラスでははさみや折り紙、粘土、段ボール等の廃材等を常に準備しておき、やりたいときに取り組めるようにしています。一人になりたいときは部屋の一角に青い椅子のコーナーで本を読むなど子どもの気持ちを大切にしています。各自に自由画帳とクレヨンを用意し、制作、体育遊び、音楽遊びを週案に入れ表現活動に取り組んでいます。

年齢に合わせた集団活動に力を入れています

年齢に合わせた集団での活動を工夫しています。0・1歳では一緒に公園へ行き、その中で自由に遊びます。無理に参加させるのではなく参加したいという気持ちを大切にしています。2歳からは全員でかけっこをしてみよう、1周してから好きな遊びをしてみようなど保育士が主導しやる気になる声かけを工夫しています。3歳で制作を統一して取り組んだ経験を、4・5歳でのもじかずランドやスポチャン活動につなげています。生け花では2歳で1輪、3歳で2輪、4歳でさらに増やし、5歳での講師による生け花指導など継続した保育をしています。

人との関わりを深め、自分の気持ちを伝えられるように取り組んでいます

乳児には体感を発語につなげる声かけ、幼児クラスでは遊びの中で問いかけて言葉を増やし、友達や保護者と伝えあいを楽しめるように工夫しています。各クラスで朝の会、帰りの会、当番などでみんなの前に立って話すこと、聞くこと、自分の考えを伝えるなどより多くの機会を設けて保育しています。毎月みんなの会で自己紹介等で発表することに慣れる機会も設けています。もじかずランドでは意欲を持ち吸収し伸びる時期に取り組み、授業形式の体験もしています。本部提供の絵本配布で継続してテーマに取り組み表現を豊かにしています。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○ 非該当

評価項目4の講評

大きな行事で園全体の協力や子どもの成長を促しています

夏祭り、プレイデイ(運動会)、発表会では保護者とともに楽しみ成長を伝える機会としています。異年齢の子どもと関わり、保護者同士の交流の機会にもなっています。日常の保育で協力して作成したものや活動の成果を見てもらいます。夏祭りではゲームをしたり盆踊りもしました。制作掲示を活用してフォトブースを作り記念の1枚を親子で写したりしました。プレイデイでは小学校の体育館で親子競技やリレー、保護者ダンスなど一緒に体を動かし達成感も味わいました。音楽会では年長の大きな楽器演奏に大きくなったら自分もと憧れを感じています。

小さな行事に季節の移り代わりを取り入れ、制作等で子どもの同士の感性を養っています

毎月誕生会で誕生児はカードをもらい、皆からの歌や紙芝居などの職員の出し物で祝ってもらいます。地域の同年の子どもも招待し、一緒に祝いその後の時間を一緒に過ごしています。春と秋の遠足やプール後のスイカ割り、お月見会、ハロウィン、お芋掘り、大根掘り、クリスマス会、餅つき、ひな祭りなど季節ごとの催しは関心を向けやすく、絵本を通じてイメージ作りをしたり、制作や寸劇などで期待を持ち、いろいろな楽しみかたを知ります。作品は各部屋の前に掲示し、他児や保護者と作り上げる楽しみも味わっています。

大きな行事への保護者の協力や理解が得られるようコミュニケーションを工夫しています

行事についてわかりやすいように工夫した案内を出しています。保護者種目を設定して参加者を求めたり、協力の依頼を通じて家庭での話題から行事に向けた親子の意欲を引き出しています。保護者が歌や種目参加だけでなく、準備や会場設営等に協力してくれる姿は親子で行事を楽しむ事にもつながっています。毎日更新のブログやスナップ写真(業者利用、購入可)で活動の様子を伝えています。日常の活動を発表する場としての行事を捉える上でも活用しています。行事後のアンケートで意見を聞き次年度に活かしています。

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○ 非該当

評価項目5の講評

保育時間の長い子どもが日中活動に向けて落ち着いて過ごせるような配慮をしています

朝7時から5~6人、8時頃までに20人程度が登園し、8時半頃には全員が登園してきます。徐々に子どもが増えていきますが日中の活動に影響しないよう、ゆっくりと過ごせるようにしています。0・1・2歳と3・4・5歳に分かれての合同保育を行い子どものペースを尊重しています。登降園時に大きな子が乳児クラスに入らないよう、兄弟での送迎順にも配慮しています。

補食・夕食の提供や保護者との連携で子どものリズムが崩れないよう配慮しています

夕方の合同保育は朝と同様に17時半頃から乳児・幼児での活動を行い18時から補食、夕食(19時過ぎの延長児)を食べます。慣れている子どもはおやつを楽しみにしています。保護者から日中だけでなく延長保育の様子も聞きたいとの声があり、連絡帳に補食・夕食のメニューシールを貼ったり食べた様子も伝えています。19時にはごく少数になってさみしくなるのでしっかり寄り添っています。昨年よりも利用者が増え、今後も増加が予想されるので遅番の対応を検討しています。

延長保育では夕方の合同保育を遅くし、年齢にあった過ごし方で落ち着きを得ています

17時半から18時の降園が最も多く、降園と移動が重なると混乱するため、落ち着けるよう時間設定を変更しました。18時半過ぎから全体的な異年齢活動を行っています。延長保育に慣れていない子どもは部屋を移動することが不安につながりましたが、寄り添いお迎えが何時か等声をかけています。合同保育の開始を遅らせたことで全体の安定につながっています。マットでのスペース、机に座って行える活動、線路を長く延ばして列車の旅を楽しむ、ぬりえで静かに過ごすなど好きなことができるよう環境設定をしています。

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎ あり ○ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○ 非該当
◎ あり ○ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○ 非該当
評価項目6の講評		
<p>楽しく食事をする、喜んで食べる雰囲気作り、環境作りを心がけています</p> <p>成長に合わせたテーブルや椅子を用意しています。1・2歳では椅子に顔写真をつけて自分の席で落ち着いて食べる、3歳からは好きな席やグループ作りなど保育の流れによって変化させています。保育士と一緒にテーブルにつき楽しい雰囲気の中で食事ができるよう配慮しています。マナーや嫌いな物について口うるさく言わず、さり気ない言葉かけで気持ちを向けるようにしています。</p> <p>食べたい気持ちは大切に育てています</p> <p>離乳食喫食状況や嚙食状況表を利用して一人一人の状態を把握しています。嗜好も入園児に確認しています。2週間サイクルのメニューで前半の様子から味付けや見た目を工夫し、行事食やお弁当給食など変化を持たせ楽しめるようにしています。年齢に併せた食べやすさの工夫や食育で育てた野菜を食べてみようと言葉をかけるなど気持ちが向くようにしています。離乳食の進行やより多くの食材を食べられるよう家庭での食事との協力が大切と考えています。アレルギーへの対応に市からのガイドラインと法人の方針に沿い、十分に配慮しています。</p> <p>食育やお話し会、給食日より、栄養士の専門知識を伝えています</p> <p>給食日よりでは季節に旬や気をつけたいこと、簡単に作れるメニュー紹介など保護者の日常に役立つ情報を提供しています。「学びたい食育」をテーマに0歳から無理のない食育を行っています。食材に触ってみる、揚げパンに砂糖をまぶす、ごますり、お米とぎ、包丁体験、野菜の栽培など体験から関心がより広がっています。今年はアレルギーでも一緒にできる食材でのパン作りを始めました。お話し会では甘味・苦み・塩味をだしの味やカルシウム、野菜の旬など体験も交えて子どもの興味を引き出しています。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎ あり ○ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○ 非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもが自分で危険を判断できる力をつけたいと考えています</p> <p>保育室内の安全について日々チェック表を使い確認しています。手洗いやうがいの大切さややり方を手洗い場に掲示したり、絵本や紙芝居で健康や安全について考える機会を設けています。危険をすべて取り除くことは出来ないで、子どもが自分で危険に気づく力をつけたいと考えています。毎月看護師による保健のお話し会を開いています。随所に貼ったばい菌シールを探して、こんな風につつまらねが出たら手を当てその手を洗うよと、子どもの興味を引き出して体験的に学ぶような工夫をしています。</p> <p>危険を持ち込まない、拡大しないなど保護者との連携で健康維持に取り組んでいます</p> <p>危険な環境を持ち込まないよう入園時に周知しています。飴やお金、ピンなどを落とすことや口にヨーグルトがついたままの登園でアレルギー児に触れるなど危険なことを説明しています。市の感染症の情報や各クラスの状況を入りに示したりブログで伝え、感染症の拡大を防止する努力をしています。病後児は保護者との連絡体制や活動に配慮しています。定期的にSIDS(乳幼児突然死症候群)について保護者に伝え、午睡でもチェックしています。保健日よりでは感染症や予防対策など早目の情報提供や継続できる提案をしています。</p> <p>子どもの成長や興味を持つ時期を見極め、自分でできる健康管理を身につけていきます</p> <p>2歳からの市歯科衛生士による歯磨き指導により歯磨きに興味を持ち、歯磨きやうがいをすると口の中がきれいになることがわかります。歯磨きの紙芝居やカバのぬいぐるみと共いうがいの練習、カバの危ない動作から歯磨き時のルールを身につけていきます。実施前に絵本を読み聞かせたり、子どもが興味を持つ時期に合わせた設定など成長に合わせた自主性で健康管理に取り組んでいます。保護者から育児と健康、成長時の悩みを聞き取り気持ちのゆとりが持てるよう、声かけも行っています。</p>		

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○ 非該当

評価項目8の講評

保育時間を家庭の状況や日々の事情に応じて、保護者支援に取り組んでいます

保育時間は家庭に合わせて設定し、延長保育も実施しています。事前登録で「勤務時間＋通勤時間」を基本に1ヶ月単位、スポット利用が有り急な用事での延長も対応します。15時までの連絡であれば夕食も提供し、間に合わなくても補食を提供します。土曜保育では勤務に限らず必要な用事でも対応しています。子どもの体調等に不安な様子があれば声をかけたり話を聞いて、保護者が安心して出勤でき、笑顔でお迎えに来られるよう支援したいと考えています。

保護者間や職員とのコミュニケーションを深める機会を工夫しています

懇談会では保護者同士で話す時間を設けています。各行事の中でも保護者同士の交流が図れるよう工夫しています。夏祭りでは休憩スペースで、プレイデイでは親子競技で、親子遠足でもクラス内の交流が親子で図れます。プレイデイや発表会での保護者の出し物では有志を募り練習日を設定したり、お手伝いをお願いして関わりの時間を持っています。給食試食会や運営委員会など園の様子を知ってもらう機会も設定しています。職員は毎日の送迎時や連絡帳、個人面談、行事のボランティアを通してコミュニケーションを深める努力をしています。

保育参加は子どもの多面を知り、保育士との信頼を深める機会になっています

保育参加を設定しています。以前は時期を決めていましたが、今は7月から3月の都合が良い日に申し込めるようにカレンダー式申し込み表を受付に置き、1日2名の枠で行っています。朝から1日中や昼食後までなど勤務等にも合わせています。当日は保護者としてではなく先生として紹介し、育児の参考にしたり、子どもが他児とどう関わっているか、けんかはどんなものでどういう解決があるのかを知るなど家庭では見られない一面を見て理解を深めたり安心して仕事に取り組める、保育士の仕事も理解できるとの声があり、より多くの体験を勧められています。

9 評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
◎ あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○ 非該当

評価項目9の講評

多くの公園に出かけ楽しんでます。さらに生活内容や体験をを広げることを期待します

近隣の公園に散歩に出かけ、季節の移り変わりや交通ルールを学んだり、近隣の人に挨拶をする、公園に来ている子どもと関わるなど体験を広げています。「お散歩マップ」には通常行く10カ所ほどの公園情報を載せ各クラスに配置し、保護者の理解や休日の利用に提供しています。公園の遊具では遊びのルールや危険についても学んでいます。図書館等様々な地域資源の利用体験を通してマナーを身につける等の取り組みで、さらに生活の内容や体験を広げていくことを期待します。

高齢者やイベントなど外部との交流の機会を作っています

近隣の高齢者施設との交流では毎月訪問し、挨拶や会話を楽しみ、歌や演奏を披露したり、一緒に制作したり生け花をプレゼントする事もあります。プレイデイに招待し5名の参加がありました。3月には5歳児が卒園の挨拶に伺い、1年間を振り返るとともに成長を喜びます。公園の閉園や新しい公園の開園イベント、市主催の観劇会への参加、ボランティア団体の音楽隊など外部の人との交流で様々な体験をしています。小学校の体育館やホールでの行事、日常の小学校校庭での遊びでも生活の幅を広げています。

地域との関係作りを広げ、深めていきたいと考えています

地域の子育て家庭を誕生月に招待し、園児とともに誕生会で祝ったり、本部の他園との交流など同年代の外部の子どもと遊ぶ機会を設けています。歌や遊び、生け花等職員以外の人に教えてもらう機会も有ります。子どもたちは見学等来訪者を喜んで受け入れており、今後さらに小学生や近隣園の子どもとの交流、園庭開放、地域の敬老会や子供会等の行事参加など、地域との関係作りを深めていきたいと考えています。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル①	リスクを順位付けして対策をとっています	
内容①	園ではリスクを①事故②侵入③災害④感染症⑤経営環境と優先順位をつけ、それぞれの発生防止や発生時の対応訓練を実施して対策に努めています。保護者の関心が園児の安全にあると受け止め、事故防止対策委員会とアレルギー対応委員会を設立し運営の中心に看護師を指名し、専門的観点を生かした委員会運営をしています。事故報告書とヒヤリハット報告書を作成し委員会で内容分析し再発防止の取り組みをしています。感染症対策では園内研修で嘔吐処理訓練もしています。火災・地震には毎月訓練を行い避難や保護者の引き取り訓練も行っています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	法人提供のプログラムを活用して、保育の充実したカリキュラムを組み立てています	
内容②	法人提供の絵本配布、もじかずランド、スポチャン活動を取り入れています。自分の絵本を繰り返し活用し、子どもの興味があるテーマを掘り下げた制作や劇などにつなげています。家庭に持ち帰って読んでいます。もじかずランドでは文字と数を意欲を持ち吸収し伸びる時期に楽しく学びます。授業形式の体験もしています。スポチャン(スポーツチャンバラ)は礼儀、挨拶、集中力、自己表現、思いやりの心を育てています。生け花では花や季節への関心を通して優しさや美しさを感じる心が育っています。絵本を活用した保育内容を法人内で共有しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている
タイトル③	より良いサービスの提供や向上を目指して職員が一致協力しています	
内容③	2017年度から、本部策定の「運営ガイドライン」があり、業務の水準が示されています。職員は、日々の業務内容を点検、気づきの中からサービス提供の向上に努めるようにしています。また、保護者からの意見や提案についても必要な改善を速やかに提供できる体制を作っています。より良いサービスの提供や向上を目指して、職員が一致協力をしていくために、朝礼や定期的な会議、改善のための目標設定をした検討委員会の設置等職員間のコミュニケーションと情報共有、役割意識を持ち改善意欲の向上に努めています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	年齢に合わせた活動を年々積み重ねて、異年齢の子どもの理解や憧れの気持ちを成長につなげています
	内容	0・1歳では一緒に公園へ行き、その中で自由に遊びます。無理に参加させるのではなく参加したいという気持ちを大切にしています。2歳からは全員でかけっこをしてみよう、1周してから好きな遊びをしてみようなど保育士が主導しやる気になる声かけを工夫しています。生け花では2歳で1輪、3歳で2輪、4歳でさらに増やし、5歳での講師による生け花指導へとつなげたり、発表会で大きな楽器演奏やプレイデイの競技など継続した保育で小さい子どもへの思いやりや大きな子どもへの憧れなどの気持ちを大切にしています。
2	タイトル	職員の業務水準を見直し、サービスの向上を実現しました
	内容	2017年度から本部策定の「運営ガイドライン」が適用され、職員の業務水準の標準化が図られています。園のサービス向上と安全面への配慮から、今年度はアレルギー対応委員会や事故防止委員会を立ち上げています。職員が役割意識とサービス向上に向けて積極的に気づきを深めることで、具体的に業務水準を上げることができています。例えば、職員の提案から延長保育の環境設定について、年長児と年少児の合同保育時間をずらして安全面を強化し、業務水準の向上を実現しています。
3	タイトル	職員が積極的に保育の幅を広げたり、気づきの向上と改善に取り組んでいます
	内容	本部から配付される絵本を活用した「絵本のネタ」を職員が考え保育に使っています。系列園でも同様の取り組みがあり、本部が取りまとめ各園にフィードバックし共有しています。園長は全体のリーダーとして取り組みを推進しており、自園職員の学びや創意工夫に役立つとともに他園の支援にもなっています。事故防止対策委員会では、看護師を座長に栄養士も参加するなど幅広い職員の参加を求め、事故報告の検討にとどまらず、保育活動の一場面の写真を見て、その中に潜む危険を議論して把握し危険性を共有し、気づきの向上と改善に取り組んでいます。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	地域とのつながりを広げて、定着や保育の充実を図ることを期待します
	内容	高齢者との交流や誕生会への地域子育て家庭の誕生月児の招待、ボランティアの受け入れなど地域の人との交流の機会を持ったり、本部の他園との交流で外部の子ども達と一緒に遊んだり、多世代交流に取り組んでいます。今後は、園庭開放や公立施設など地域の社会資源の利用を広げることで、地域の人との関わりからマナーを学ぶ機会を持ったり、地域の中での役割を担うなど、保育の広がりや定着、充実を図ることを期待します。
2	タイトル	利用希望者等の園見学の曜日や時間帯などの設定内容を、広げていく検討を期待します
	内容	利用希望者等の園見学については、毎週木曜日午後1時から、5人までと設定して本部からのWebで公表し、電話やメールでの申し込みが出来るようにしています。毎年8～10月の利用申し込みが多く、月平均10人位が見学に訪れています。見学者に対しては、主任やリーダーが対応し、園長は相談者への対応で役割分担しており、楽しい雰囲気づくりを心がけています。希望者の中には、他の保育時間や曜日を希望する場合もあり、柔軟に対応してはいますが、今後は曜日や時間帯の設定条件をはじめからを広げていく検討を期待します。
3	タイトル	安全対策の一環である設備面での改善を期待します
	内容	職員が日頃の保育活動の中に潜むリスクに気づき、事故防止への取り組みや、安全への取り組みを強化するため「アレルギー対応委員会」「事故防止委員会」を設置して安全対策に取り組んでいます。アレルギー児へ職員全員が共通理解を深め、改善のポイントを検討したり、保育場面の中での危険性を共有し、気づきの向上、改善に取り組んでいます。保護者意見には、園庭に水たまりができて登降園時足元に注意がいる、雨天時園舎への出入りが大変、降園時日没後は暗いなど、安全対策の一環である設備面での改善を期待します。